



## 日中韓子ども童話交流事業 日本人参加経験者に係るフォローアップ調査

### 調査の概要

【調査目的】 国立青少年教育振興機構では、日本、中国、韓国の子ども達が一堂に会し、各国の絵本・童話を通じて読書の楽しみを知るとともに、一緒に語り合い協力して創作絵本を作成することで、3カ国の文化の特徴や共通性、違いなどを知り、相互に友情を深めるために、平成14(2002)年度から実施され、平成23(2011)年度からは3カ国による巡回開催により実施している。

本調査では、「日中韓子ども童話交流事業」に参加した日本の小学生の実態等を把握し、今後の業務及び事業企画の参考とする。

【調査対象】 平成23～29年度(26年度を除く)の参加経験者(198人)のうち、住所が判明できた182人を調査対象者とした。そのうち、12～21歳の70人(男性:34人、女性:36人)から調査票を回収した(回収率:38.4%)。

【調査期間】 2020年12月5日(土)～2021年1月8日(金)

【調査方法】 調査対象者に調査への協力依頼文書を郵送し、Webでの回答を依頼した。

【調査内容】 本調査では、事業に参加した日本人参加者の事業プログラムへの感想、現況等についてアンケート調査を行った。

○参加した際の事業内容について

○事業参加後の活動

自身の変化、国際交流事業への参加、海外留学経験、事業参加者等との交流、進路・職業への影響、ボランティア活動 等

○事業参加の感想、現在の希望、事業への参加協力、今後希望する事業 等

○前回調査(H29年3月公表) H14～18年度の参加経験者対象との比較

## 事業について

### 1. 事業趣旨

本事業は、毎年決められたテーマをもとに、3カ国100名の子ども達が自然体験、絵本制作、絵本づくり、共同宿泊体験などを行う7泊8日の国際交流事業である。

### 2. 実施内容

8月16日(水)～23日(水) 7泊8日

#### ①日本でのプログラム(8月16日)

出発式、オリエンテーション

#### ②開催国でのプログラム(8月17日～23日)

絵本作り、文化交流及び文化体験 など

### 3. 参加者

日中韓の小学校4～6年生 100名

(各国33名、開催国は34名)

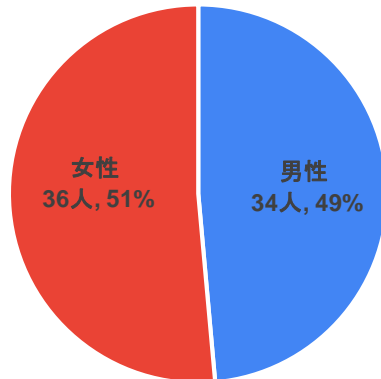
【参考】平成29(2017)年度の日中韓子ども童話交流事業プログラム  
テーマ：「音」

日次	月日 (曜)	地名	日 程
1	8/16 (水)	東京	日本の子ども達が集合
2	8/17 (木)	ソウル	日本、中国、韓国の子供も達が集合 オリエンテーション 旗づくり
3	8/18 (金)	ソウル	ロッテワールド展望台見学 国立子ども青少年図書館見学 開会式 歓迎夕食会
4	8/19 (土)	ソウル 済州	グループ別活動 済州へ移動 済州世界自然遺産センター見学 ナンタ公演
5	8/20 (日)	済州	済州民俗村見学・民族遊び体験 アクアプラネット訪問 童話の読み聞かせ 全体交流活動
6	8/21 (月)	済州	講義 童話作家の絵本製作と製作過程 絵本の絵を描く 絵本の発表会の準備
7	8/22 (火)	済州	絵本の製本 絵本の発表会 柱状節理帯見学 かくし芸大会
8	8/23 (水)	済州	閉会式 さよならの時間

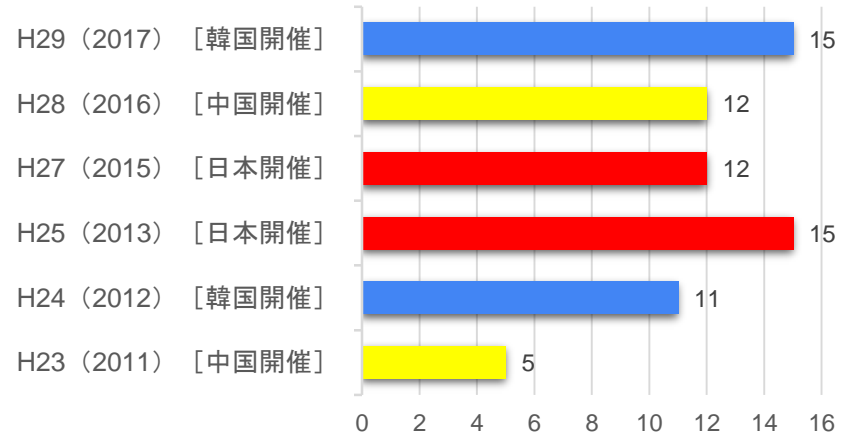
# 調査対象者の概要

回答総数(n) = 70名

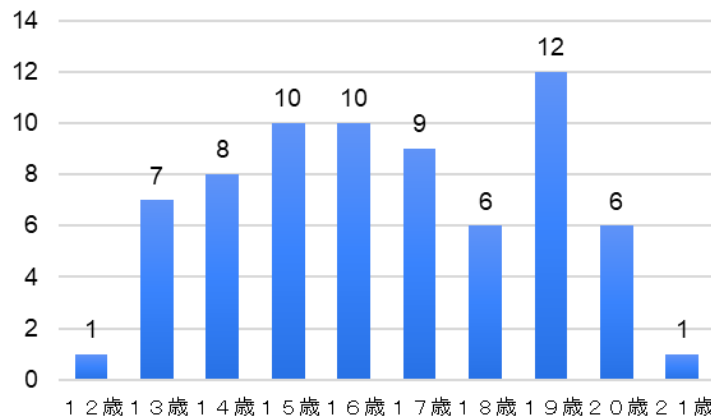
<男女比>



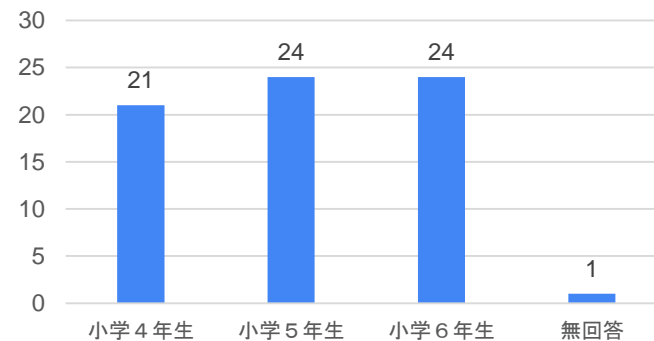
<参加年度>



<現在の年齢>



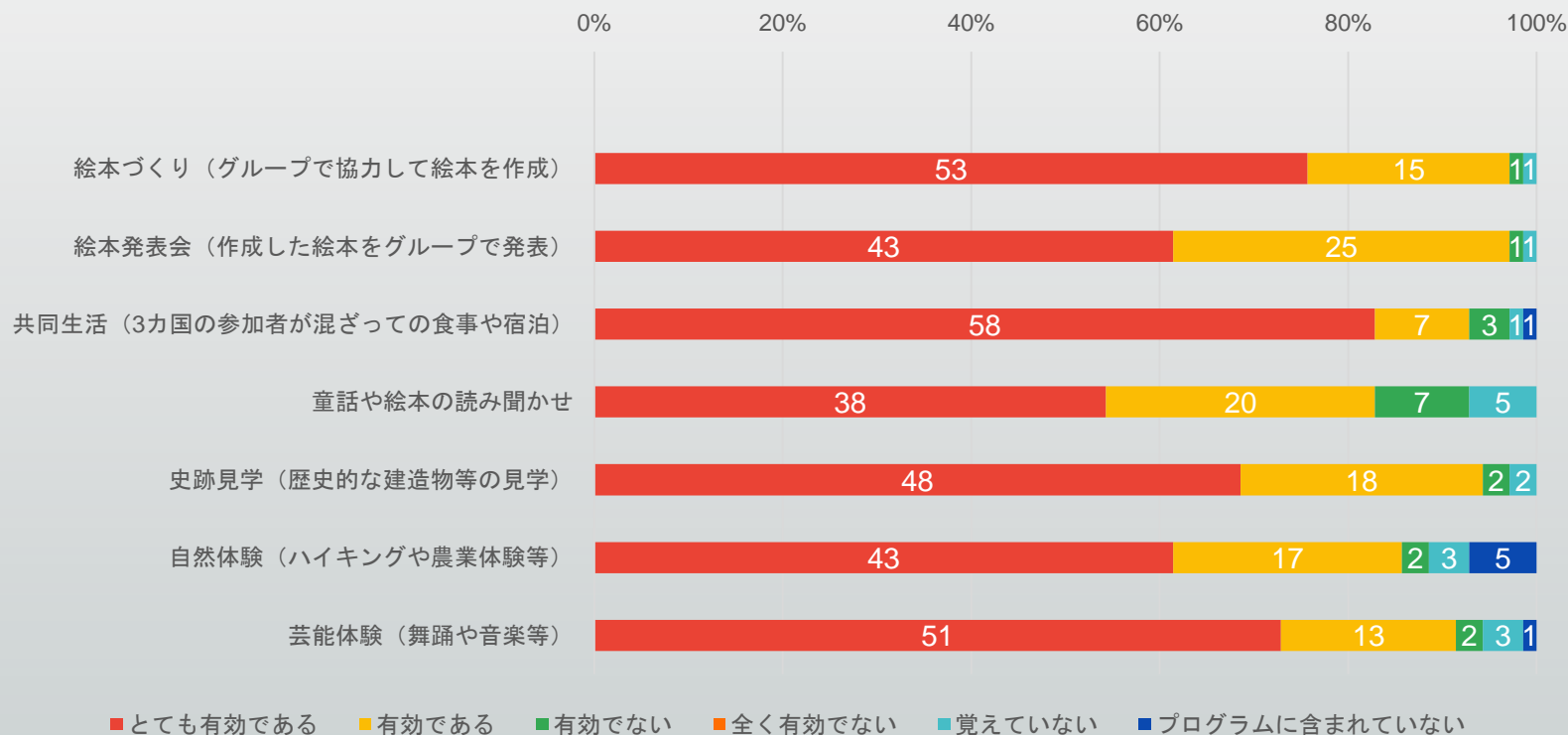
<事業に参加した当時の学年>



# 調査結果の概要

## プログラムの有効性

当事業のプログラムが、中国・韓国の参加者との交流にどのくらい有効だと感じましたか

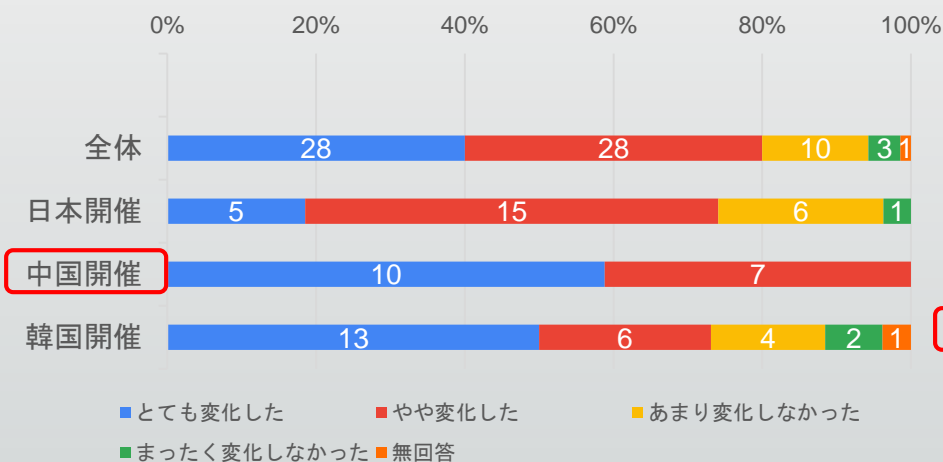


n=70

- ・ 本事業のプログラム7項目すべてにおいて「とても有効である」「有効である」の割合が80%を占めている。
- ・ その中でも、「共同生活」や「絵本づくり」のプログラムについては、75%以上の参加者が中国・韓国の参加者との交流に「とても有効だった」と回答している。

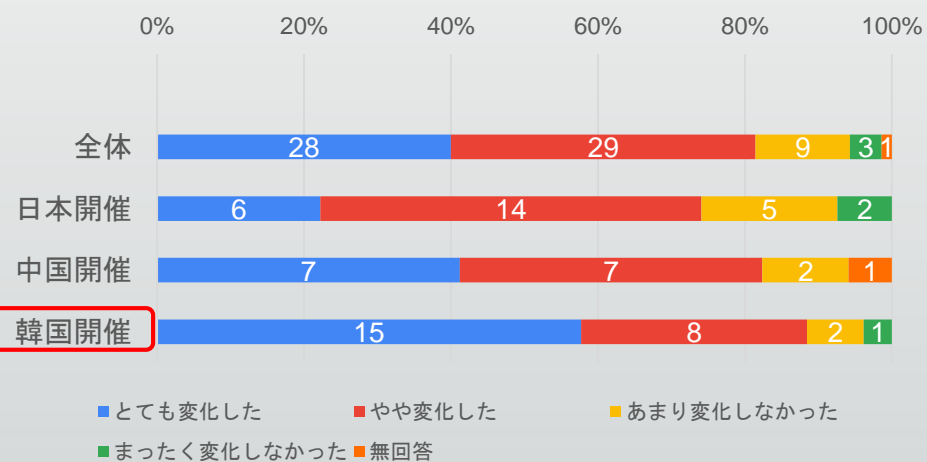
## 参加前／後の中国・韓国に対する印象やイメージの変化

### 中国に対する印象やイメージに変化はありましたか



n=70

### 韓国に対する印象やイメージに変化はありましたか

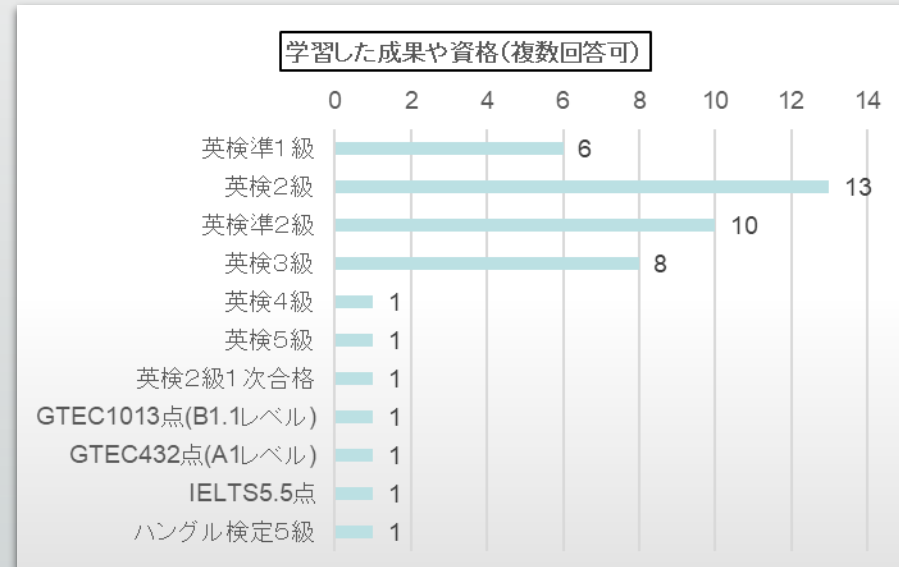
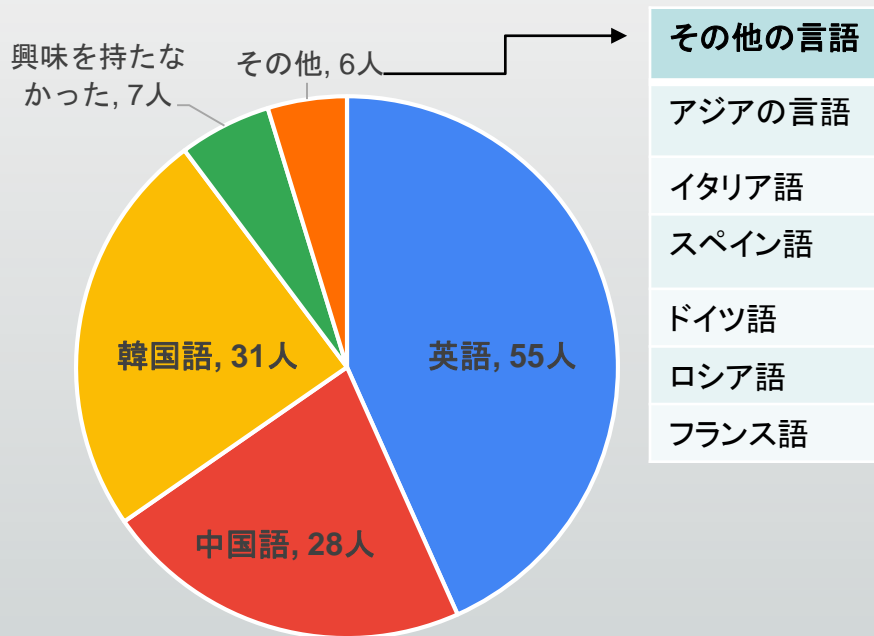


n=70

- 中国、韓国に対するイメージについて、ともに「とても変化した」「やや変化した」と回答した割合が全体の80%を占める。
- 各開催国（開催地）別で「とても変化した」の回答者のみを比較した場合、開催（訪問）した国に対するイメージの変化がより顕著に表れる結果となった。

# 外国語の学習について

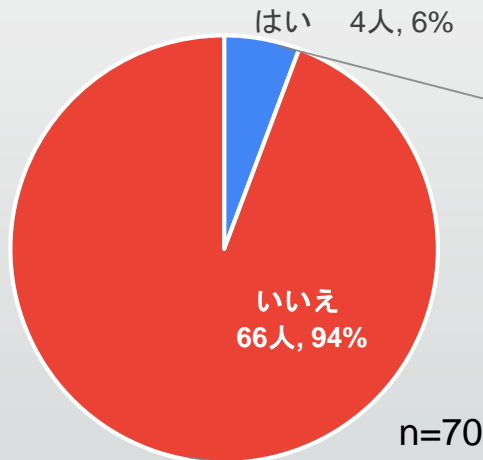
## 興味を持った外国語は何ですか(複数回答可)



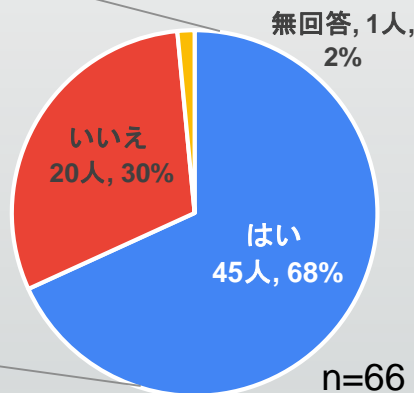
- ・参加者の多くが興味を持った外国語として「英語」と55人が回答している。
- ・当事業の外国人参加者の母国語である「中国語」、「韓国語」にも興味を持った日本人参加者が一定以上それぞれ28人、31人いる。
- ・資格取得にも積極的な姿勢がうかがえる。

# 海外留学および国際交流について

## 海外留学をしました(しています)か



## 今後、留学してみたいと思いますか

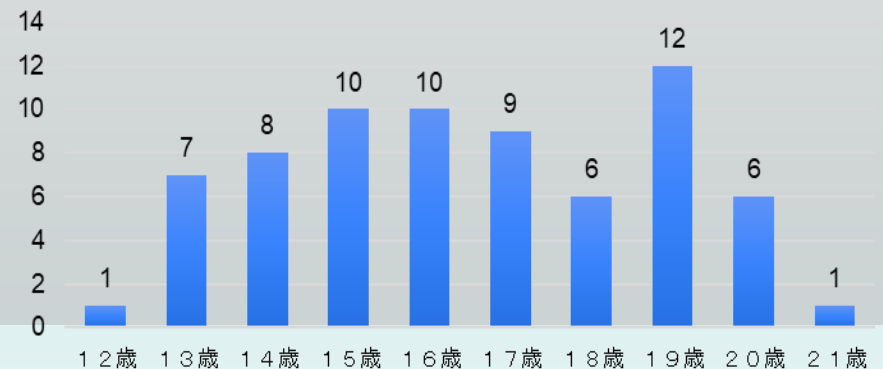


- ・海外留学経験者は、4人（6％）であり、未経験者の66人のうち、45人（68％）が「今後留学してみたい」と回答しており、意欲を示している。
- ・回答者のうち、64人（92％）が当事業参加を機に「国際交流に興味を持った」と回答している。
- ・今回の回答者の年齢分布は下図の通り、18歳以下（中学生、高校生等）が51人（全体の72.9％）であり、上記の結果と併せ、今後海外留学の機会を得る者がさらに増えることが期待される。

## この交流を機に国際交流に興味を持ちましたか

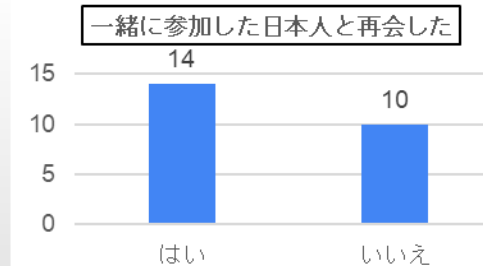
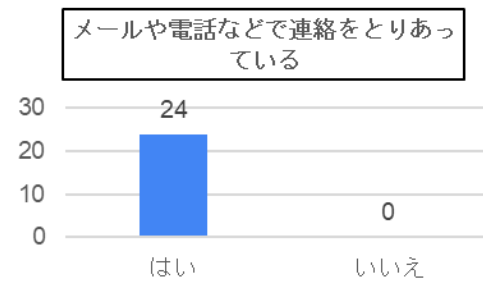
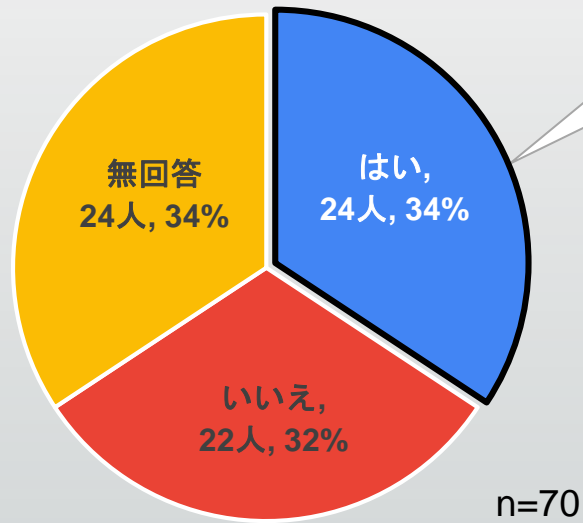


回答者の年齢分布



# 日本人参加者との交流について

## 当事業と一緒に参加した日本人と交流を継続していますか



- ・ 回答した者(46人)のうち約半数の24人(全体の34%)が「当事業と一緒に参加した日本人と交流を継続している」と回答している。
- ・ 交流を継続している回答者の全員がメールや電話などで連絡をとりあい、そのうちの半数以上(14人)は再会している。



## 自由回答で寄せられた意見（一部抜粋）

### 今後どのような交流事業やプログラムがあると良いと思いますか

#### 【対面交流に関すること】

- ・直接会って交流する方向でイベントを開催して欲しい。
- ・やはり直接交流し、一緒に何かを作り上げていくことが一番分かり合えると思う。

#### 【オンライン交流に関すること】

- ・感染症の流行もあるため、オンラインでの交流も視野に入れて良いと思う。
- ・新型コロナウイルス感染症に配慮した交流事業。
- ・リモートでコロナ対策のためにできることを話し合う。

#### 【再会・交流の場に関すること】

- ・中高生の参加経験者イベントで当時の友人やOBと再会してよい刺激を受けた。
- ・事業後の参加者のコミュニティーを充実させるとよいと思う。
- ・交流事業の後も継続して関係のあるプログラムがあると、もう一度再会することができていいと思う。